



KYOTO NATIONAL MUSEUM

April to June, 2014

京都国立博物館だより

4・5・6月号

number

182

contents

【特別展覧会】
南山城の古寺巡礼

【平成知新館オープン記念展】
京へのいざない

左から：重要文化財 十一面観音坐像 現光寺蔵 / 〈初公開〉不動明王二童子像 観音寺蔵 / 重要文化財 愛染明王坐像 神童寺蔵

右：重要文化財 宝誌和尚立像 西往寺蔵



特別展覧会

みなみやましろ 南山城の古寺巡礼



重要文化財 十一面観音立像 禪定寺蔵

水と緑に恵まれた南山城の地には、奈良
↳平安時代創建の古い寺院が点在していま
す。山あいであり、訪れることが難しいこ
れらの寺院を訪ねて旅をするのは、まさに
「古寺巡礼」の名前に相応しいといえるで
しょう。

この展覧会では、展示会場で南山城を探
訪していただくべく、次の六つのテーマに
沿って貴重な文化財をご紹介します。この
機会にゆっくりとご鑑賞いただければ幸い
です。

第I章 南山城の歴史と文化

まずは現在の寺院が創られる以前の様子
をご紹介します。木津川市山城町の樅井大塚
山古墳は多数の三角縁神獣鏡が出土したこ
とで有名です。また京田辺市の飯岡トツカ
古墳からは特異な文様をもつ青銅鏡も出土
しています。失われた寺院としては高麗寺
跡が注目されます。日本最古段階の飛鳥寺
様式の軒丸瓦が出土してこの地域の仏
教文化の古さを示しています。

第II章 瓶原と海住山寺

瓶原みかのぼらとは奈良時代に恭仁宮きんみやう、のちに山城
国分寺が置かれた木津川市加茂町の平野で
す。その瓶原を見下ろす北側の山の中に海住
山寺は立地します。天平時代の創建と伝え
られ、平安時代前期の優れた十一面観音像
などで知られています。鎌倉時代初めに解
脱上人貞慶が笠置寺から移って「海住山寺」
と寺号が定められました。国宝の五重塔の
ほか多くの文化財を伝えています。海住山
寺への参道はとても急傾斜です。



重要文化財 十一面観音立像 海住山寺蔵

第三章 笠置山と笠置寺

木津川の南岸にある笠置山はその見かけは優しいのですがその登山道は驚くほど険しいものです。七世紀後半に開かれた山岳信仰の霊地です。山頂近くの巨大な花崗岩の岩塊に刻まれた弥勒石像や虚空蔵菩薩石像で有名です。弥勒信仰の盛んな平安時代には貴顕の参詣があいつぎました。鎌倉時代には貞慶が入ってその寺観が整えられました。笠置寺の縁起を絵と文章で綴った「笠置寺縁起絵巻」が良く知られています。

第四章 浄瑠璃寺と岩船寺

— 当尾の里 —

京都府の最南部、奈良県との境に近い木津川市加茂町の当尾の里は低い丘陵がちな静かな山里です。奈良市内からバスで訪れる参拝者が多い地域といえます。

岩船寺は奈良時代の創建と伝える古寺です。本堂の丈六の阿弥陀如来坐像（天慶九年銘、九四六年）の存在感には圧倒されます。現在は三重塔や本堂・石造十三重塔などが残り、花の寺として知られています。

浄瑠璃寺は平安時代後期、浄土信仰のもとに造営されました。九体阿弥陀堂や三重



神人車馬画像鏡 トゾカ古墳出土 京都国立博物館蔵

みなみ やましろ

南山城の古寺巡礼

特別展覧会

平成26年4月22日(火)～6月15日(日) 明治古都館



国宝 四天王立像のうち多聞天立像 浄瑠璃寺蔵



毘沙門天立像 笠置寺蔵



青銅経筒 笠置寺蔵



青白磁如意頭文香炉・青白磁唐子蓮華唐草文百合口瓶 海住山寺蔵

【観覧料】

	一般	大学・高校生	中学・小学生
当日	1500円	900円	500円
前売	1300円	700円	300円
団体	1200円	600円	200円

※ 団体は20名以上
※ 展示期間中、作品保護のため展示替えを行います。

皆さまに愛された平常展示館が休館となって、はや五年あまり。ついに待ちに待った新しい平常展示館（平成知新館）が完成し、2014年9月13日にオープンする運びとなりました。当館ではそれを記念した展覧会、「京へのいざない」を二期に分けて同展示館で開催いたします。

ご存知のように、平安遷都以降の約千年間、わが国の首都であり続けた京都は、同時に文化の中心地でもありました。例えば、天皇や公家による雅な王朝文化や北山・東山文化に代表される力強くも幽玄な武家文化、天下人・豊臣秀吉の強烈な個性を反映した華麗な桃山文化や庶民の生き生きとした暮らしを伝える町衆文化など、それぞれの



国宝 伝源頼朝像 神護寺蔵 (9/13～10/13 展示)



国宝 伝平清盛像 神護寺蔵 (9/13～10/13 展示)

開館記念

平成知新館オープン記念展 京へのいざない

第1期 9月13日(土)～10月13日(月・休)
第2期 10月15日(水)～11月16日(日)
平成知新館

塔が十二世紀のままに残っています。本堂内の空間は平安時代当時の貴重な宗教空間です。

第V章 南山城の古寺

禪定寺（綴喜郡宇治田原町禪定寺）には平安時代半ばの巨大な十一面観音立像や多くの優れた仏像が伝わってきました。平安時代以来の古文書も重要です。

寿宝寺（京田辺市三山木）には平安時代後期の優れた千手観音立像などが伝わってきました。

蟹満寺（木津川市山城町綺田）には巨大な釈迦如来坐像（国宝）が伝わっています。奈良時代前期の大きな銅造仏です。

神童寺（木津川市山城町神童寺）は山間の修験道の寺院で北吉野山を号しています。平安時代以来の多数の仏像を伝えてきた宝庫でもあります。

観音寺（京田辺市普賢寺）はもと普賢寺とよばれ、奈良時代の優れた十一面観音立像（国宝）でよく知られています。

第VI章 一休禪師と酬恩庵

京田辺市新の酬恩庵は一休寺とも呼ばれます。一休宗純（一三九四〜一四八二）がその晩年を過ごし、彼の墓所があります。鎌倉時代後半に創建された禅寺でしたが一時期衰退し、十五世紀なかばに一休によって再興されました。一休禪師は後小松天皇の落胤ともされ、その独特な性格と行動で様々な逸話を残しています。型破りな生き方は後世に「一休さん」として親しまれる素地となりました。酬恩庵は一休の肖像画をはじめ、彼の袈裟や笛など複数の遺品を伝えてきました。（宮川禎一）



重要文化財 普賢菩薩騎象像 岩船寺蔵 (写真：便利堂)



重要文化財 千手観音立像 寿宝寺蔵



聖徳太子像 寿宝寺蔵



阿弥陀如来坐像 蟹満寺蔵



朱漆塗印箱 伝一休宗純所用 酬恩庵（一休寺）蔵



重要文化財 一休宗純像 自賛 酬恩庵（一休寺）蔵



南浦紹明（大応国師）坐像 酬恩庵（一休寺）蔵

時代を彩るに相応しいさまざまな文化が、ここ京都の地で花開いたのです。しかも、それらは各々独立したものでなく、前代の伝統を大なり小なり受け継ぎながら発展していきました。その意味からすれば、それらを「京文化」という一本の大樹になぞらえることもできるかもしれません。展覧会「京へのいざない」は、そんな京文化の粋をご堪能いただくこととするものです。展示作品は国宝50余点、重要文化財110余点を含む総計約400点（いずれも二期分の合計）。絵画・書跡・彫刻・工芸・考古の各分野から選りすぐられた、まさに名品・名作のオン・パレードです。おそらく京博史上まったく例のない、きわめて贅沢かつゴージャスな展覧となることでしょう。新装なった美しい会場内、それらはいったいどんな輝きを放つのか。ぜひ、ご自身の目でお確かめください。（山本英男）



重要文化財 鳥獸文様陣羽織 豊臣秀吉所用 高台寺蔵 (10/15~11/16 展示)



重要文化財 宝誌和尚立像 西往寺蔵



重要文化財 豊臣秀吉像 西教寺蔵 (10/15~11/16 展示)

江戸時代、肥前地方（現在の佐賀・長崎県）において磁器の国内生産が可能になり、中国からの輸入に頼っていた中世までとその流通の様相は大きく変わる。近世遺跡からの中国陶磁の出土は、国内産陶磁に比べると圧倒的に少なく、あくまでマイナーな存在である（ただし明・清と冊封関係を結んでいた琉球（沖縄）を除く）。しかしそれでも18世紀後半以後になると清朝陶磁の出土が増加することが知られている。本展の冒頭において展示された遺跡出土の清朝陶磁のコーナーは、現在の近世考古学の一般的な理解の確認とも言える。

しかし本展の特色は、その一般的理解を踏まえつつ、考古学資料として現れにくい、近世日本における清朝陶磁の流通の様相について、伝世品を中心としながら明らかにしている点にあるだろう。考古学資料としての陶磁器は、本能的には、破損して使えなくなり、廃棄されたものである。一方、陶磁器の中には、丁寧に保管され、伝世されるものがある。それは高い価値を付与された茶道具であったり、希少な高級輸入陶磁であったりする。本展では、まさにそのような清朝の高級陶磁に着目している。

その中でも筆者の専門領域とも関係して注目したいのが、近衛家の陽明文庫に伝わる金球瓏高足杯である。この高足杯は、近衛家鷹の侍医・山科道安の『槐記』享保十三年（一七二八）四月三日の条に記されている「先年薩州より献上」された「金球瓏有蓋把椀」と考えられる。また文化四年（一八〇七）の琉球館文書から、島津家が琉球を通じて清朝官窯製品を献上用に求めていることが判明している。つまりこの高足杯は、中国→琉球→薩摩というルートで近衛家にもたらされた可能性が考えられる（以上の推測については『京都国立博物館だより』第176号掲載の尾野善裕氏「うらんだーのやちむん「金球瓏」を」を参照いただきたい）。



特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」展示風景

「魅惑の清朝陶磁」展に寄せて

鹿児島大学教授 渡辺芳郎 Watanabe Yoshiro

鳥津家と近衛家との関わりは、12世紀、近衛領・鳥津荘（宮崎県都城市）の下司職に初代・忠久が補任されたことに始まる。その関係は中世・近世を通じてさまざまな形で現れるが、宝永元年（一七〇四）に鳥津継貴の娘・亀姫が、正徳二年（一七一二）には吉貴の娘・満君がそれぞれ近衛家に嫁し、婚姻関係も結ばれている。前述の『槐記』の記事が出てくるのは、そのすぐあとである。亀姫・満君はともに夭逝したので、婚姻そのものは長続きしなかったが、「薩州より献上」されたのは、鳥津家と近衛家がきわめて緊密な関係を持っていた時期とほぼ符合する。またその時期が、考古学資料としての清朝陶磁が少ない18世紀前半であることも注目される。

全国の大名で第二位の石高72万石を有する鳥津家、琉球王府、五摂家のひとつ近衛家、そしておそらく徳川將軍家なども含めて、当時の社会階層最上位の人々の間で、陶磁器の遣り取りが行われていたことが、金球瓏高足杯から推測できるのである。そしてそれは、破損し、廃棄された考古学資料からは知ることがきわめて難しい最高級陶磁器の流通の一端を示している。

現在、私たちのまわりにはさまざまな陶磁器がある。数十万円もするティーカップセットもあれば、百円ショップで売っているマグカップもある。前者だけ取り上げても、あるいは後者だけでも、現在の陶磁器の全体像は語れない。それは江戸時代についても同様で、遺跡出土の廃棄品もあれば、最高級の伝世品もある。片方だけでは近世の清朝陶磁のあり方は語れない。本展覧会では、近世の清朝陶磁器を扱いつつ、より広く陶磁器の生産や流通の全体像を考える上では、伝世品だけでは十分ではなく、また考古学資料だけでも一面的であり、両者を含めた複眼的な視点や多様なアプローチの必要性を示していると言えよう。

京博ナビゲーター募集のお知らせ

平成知新館のオープンにあわせて、来館者と交流しながら、古美術品と親しむ入口を提供するボランティア（京博ナビゲーター）を募集します。

◇応募条件・応募資格◇

●平成26年4月1日現在、18歳以上の方で、日本語で日常会話ができる方

●募集説明会1回、面談選考1回、基礎講座全4回にすべて参加可能な方

●電子メール（携帯電話またはパソコン）での連絡が可能な方

●京博ナビゲーターの趣旨に共感し、協調性を持って活動に参加できる方

*原則として月1回、決まった週の決まった曜日の10時～16時30分の間、京都国立博物館平成知新館において活動します。

*任期は3年、1日の参加者は6名程度、募集人数は150名です。

*活動は無償です。交通費・食費・謝礼等の支給はありません。

◇応募方法◇

●応募用紙は、6月3日（火）～8日（日）の各日、午前10時～12時に実施する募集説明会の参加者へのみ配布します。応募用紙は、6月20日（金・消印有効）までに郵送してください。

●募集説明会は事前申し込み不要です。各日9時30分より南門にて受付を開始します。

*応募用紙は募集説明会参加者へのみ配布します。

詳しくは京都国立博物館ホームページ、または教育室・京博ナビゲーター募集係（075-531-7716）までお問い合わせください。

国立博物館の展覧会

◆東京国立博物館◆

開山・栄西禪師800年遠忌特別展「栄西と建仁寺」

3月25日（火）～5月18日（日）

特別展「キトラ古墳壁画」

4月22日（火）～5月18日（日）

◆奈良国立博物館◆

特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像―迫真とエキソシズム―」

4月5日（土）～6月1日（日）

◆九州国立博物館◆

特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝 京都・陽明文庫展」

4月15日（火）～6月8日（日）

休館のお知らせ

京都国立博物館は、9月13日の平成知新館オープンまでの間、特別展覧会期間中のみ開館しております。平成26年の全館休館は次の通りです。

～平成26年4月21日 6月16日～9月12日

また、作業車両等通行のため、安全上の観点から、大和大路側の西門（正門）を閉鎖しております。開館までの間、ご不便、ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

Saturday Lecture Series

【土曜講座】

- 4月26日 南山城の歴史と文化 京都国立博物館企画室長 宮川禎一
5月10日 古代南山城の観音像 同志社大学教授 井上一稔氏
5月17日 一休さんと酬恩庵の絵画 京都国立博物館美術室長 山本英男
5月24日 浄瑠璃寺と当尾の里 浄瑠璃寺副住職 佐伯功勝氏
5月31日 南山城の仏像と慶派仏師 京都国立博物館保存修理指導室長 浅湫 毅
6月7日 万葉歌にみる馬場南遺跡（神雄寺）と恭仁京のトボス
京都府教育庁文化財保護課 伊藤 太氏

◇会場◇ 平成知新館 講堂 午後1時30分～3時

◇申し込み方法◇ 往復はがきに聴講希望日・住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、京都国立博物館「土曜講座」係までお申し込みください。定員(204名)になり次第締め切ります(往復はがき1枚につき1名様1講座分のお申し込みとなります)。

◇聴講料◇ 無料(展覧会には別途観覧料が必要です)

Announcements

【講座・イベント】

《小・中学生向け鑑賞会 少年少女博物館くらぶ「みほとけめぐり！」》

日 時：平成26年5月11日(日)・5月18日(日)

当日午前10時30分までに明治古都館入口前にお集まりください。先着25名。*各日とも内容は同じです
講 師：京都国立博物館教育室研究員 水谷亜希 参加料：無料(ただし、展覧会観覧料が必要です)

《平成26年度夏期講座のお知らせ》

テーマ：古社寺と文化財Ⅱ 開講日：7月30日(水)・7月31日(木)・8月1日(金)

会 場：平成知新館 講堂(定員204名) 聴講料：3000円

*申込方法 往復はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、京都国立博物館「夏期講座」係

(〒605-0931 京都市東山区茶屋町527)までお申し込みください。申し込み期間は6月1日～10日です。

*5月31日以前の申し込みは無効となります。申し込み人数が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。

《姜 暁艶 二胡コンサート 京都国立博物館から世界へ響け！～慈しみの佛心～》

日 時：平成26年5月4日(日) 午後1時、午後2時30分、午後4時からの3回公演

会 場：平成知新館 講堂 入場料：1000円(全席指定・各回完全入替制、特別展覧会割引券付)

《京都・らくご博物館 春》

日 時：平成26年5月16日(金) 午後6時30分開演

会 場：平成知新館 講堂 入場料：3100円(全席指定、特別展覧会割引券付)

*二胡コンサート・らくご博物館 春のチケットご希望の方は、お電話、またはWEBよりお申し込みください。

申し込み先：お電話/博物館事業推進係 075-531-7504 (月～金の10～12時・13～17時に受付 *祝日は除く)

WEB/ <http://www.kyohaku.go.jp> 申し込み画面

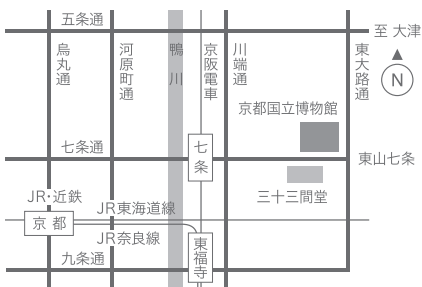
Forthcoming Exhibitions

【これからの展覧会】

◆平成知新館オープン記念展 ^{みこ}京へのいざない 平成26年9月13日(土)～11月16日(日)

◆特別展覧会 修理完成記念 国宝 鳥獣戯画と高山寺 平成26年10月7日(火)～11月24日(月・休)

Information



発行日 2014年4月1日/編集・発行 京都国立博物館
デザイン 谷なつ子/印刷 株式会社大伸社

開館時間：展覧会期間中

9:30～18:00、金曜日は20:00まで開館

*入館は閉館の30分前まで

観覧料：展覧会ごとに異なります

休館日：月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)
12月16日～平成26年4月21日、6月16日～9月12日まで全館休館
です

アクセス：JR=京都駅下車、市バスD1のりばから100号、D2のりばから
206・208号系統にて博物館・三十三間堂前下車、徒歩すぐ
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばから京都女子大学前行
にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行
きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行
きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通
機関ご利用ください。

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL.075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <http://www.kyohaku.go.jp>

携帯サイト <http://www.kyohaku.go.jp/i>

「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒
は90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室にお申し込みください。